

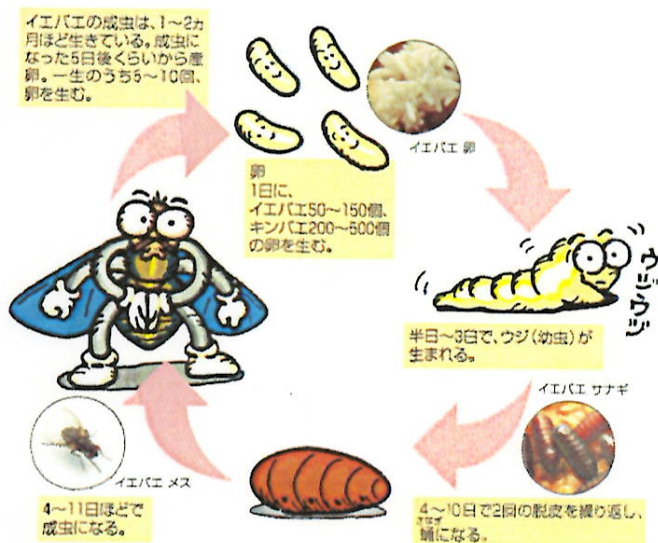
# 【ハエと蛆虫 小方可奈江】

## はじめに

こんにちは。最近、子牛の下痢が長引いた症例において、肛門周囲に蛆が発生したのを何度か見かけました。そんな蛆とハエについて調べてみましたので、お付き合いいただければ幸いです。

## 蛆とは

蛆、または蛆虫はハエの幼虫です。ハエの一生は以下のように、寿命は約40日です。蛆でいる期間は約4日です。



ハエは数百種類いますが、私たちがよく見かけるハエにはイエバエとサシバエ、ノサシバエがいます。イエバエは至る所に生息し、人間の生活場所でも耳障りになることが多いでしょう。一方で、サシバエは牛舎付近で、ノサシバエは放牧地にいる牛の周囲に生息することが多く、その理由として、牛の血液を餌としているからです。サシバエは暑さ(34℃以上)や寒さ(14℃以下)に弱く、秋口の涼しくなってきた時期の発生が多いようです。どれも発生場所は主に家畜の糞です。



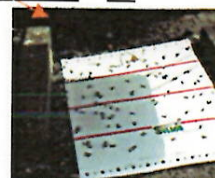
牛はサシバエやノサシバエが発生すると、異常行動をとります。吸血による痛みを避けるために牛同士が同じ場所に固まる。よって、ヒートストレスを感じたり、寝られ

なかつたり、採食量が減ることもあり、乳量が下がる(10~20%減少)原因になるということです。また、育成若牛については増体量に影響(10~25%減少)します。さらには、ハエが、病原菌やウイルスの媒介となることもあります。



蛆が発生するということは、ハエが卵を産んだということ、つまり餌があるから産むわけです。ハエは腐敗物質を餌とします。よって、子牛の下痢が続く、肛門周囲に糞便がべっとりついた状態が続けば、ハエは餌のある場所だと思って、卵を産むことになります。

環境中のハエの対策はハエ取り紙やネット、スプレー等が一般的であり、牛に集まるハエを見かけたら対処すべきでしょう。



しかし、ハエは一生のうちで約500個の卵を産むことから、ハエのいない牛舎にすることは難しそうです。そこで、環境対策と薬剤による対策を両方行うことが大切です！

- ① 環境対策でハエの発生源を除去
- ② 発生した蛆・ハエに薬剤を適切に使用

①環境対策：ハエの発生源を取り除くことで生活環境を絶ち、ハエの発生をおさえます

→定期的な清掃(畜舎内の糞や残餌をこまめに片付ける)・堆肥の定期的な切返し(ハエの卵は40度以上の温度で死滅します)・乾燥(ハエの卵は水分50%以下で孵化率が低下する、水分の多い飼料にはフタやシートを被せる)・防虫ネット(ハエは舎内外を日周的に往復する)等



## ②薬剤使用

→薬剤によるハエ対策は、幼虫対策が基本となり、羽化して飛び回る前の抵抗力が弱い幼虫を駆除するのが効果的です。また、サンバエは牛の血液を餌としているため、イエバエと異なり、成虫を誘引して防御することは困難です。幼虫対策には、幼虫の成長を阻害する幼虫駆除剤(IGR剤)等を使用します。1kgの糞の中に、約7,000匹もの幼虫が存在すると言われています。

●幼虫対策すべき場所：堆肥場、子牛ハッチ、水場・餌場のグチャグチャした所、いつも敷料が濡れている所、雨が吹き込む所

成虫の大量発生には、誘引殺虫剤(ベイト剤)や殺虫剤等を使用しましょう。殺虫剤は、ハエが畜舎の天井や壁などに止まっている夕方から早朝または雨天時に行いましょう。夜間には、牛舎の外の雑草に正まっていることも多く、よくハエが正まっている雑草には薬剤を使用すると効果的かもしれません。

・牛の血液を体内に取り込むことで、サンバエの体温も上昇するので体温を下げるために木陰の雑草へ行く

・体重の5割増しの体重になって行動が鈍くなる(防虫ネットを回避できない)

→休息場所対策も大切!!

具体的に薬剤を少し紹介します。

○IGR剤(幼虫発育抑制剤)：ネポレックス、スミラブ粒剤、シロマジソ、サイクラートSG、バイパック(畜体への噴霧はしない)

○幼虫・成虫どちらも対象：トヨダン(畜体への噴霧はしない)、ネグホン、スパレン乳剤、ETB乳剤

○成虫対象：バイオフィライ(畜体への噴霧はしない)、ノックベイト(イエバエのみ)、エコスピードバック、ボルホ、フライガードスプレー

薬剤は、取扱説明書の用法・用量・使用方法および保管上の注意を守って使用し、使用記録を残しましょう。

しかし、薬剤の使用を続けることはコストもかかりますし、きりがありません。ハエ対策の基本は①の環境整備であるでしょう。残餌がいつもある場所やいつも糞の掃除ができていない場所(バンスクレーパーの出発点)等に心あたりはありませんか？ハエの少ない牛舎では、そのような場所がない印象を受けます。

まずは環境整備から行いましょう！



## さいごに

10月になり涼しくなってきましたが、まだまだハエはよく見かけますね。調べていくと意外とハエの世界は深く、まだまだ知らないことが多そうです。

ハエは冬眠をするわけではなく、気温によって成長速度が遅くなり(卵から成虫になるのに1ヵ月以上かかる)、活動が鈍くなるため、冬には見かけることがほとんどなくなるわけです。

ハエの対策によって乳量上がるのなら、今一度環境対策を考え、薬剤使用も視野に入れてみても良いのではないのでしょうか。

最後までお付き合いいただきありがとうございました。

小方可奈江



Total Herd Management Service